

環境委員会

「環境にやさしい車体作り」
「地球環境を配慮した生産」の推進

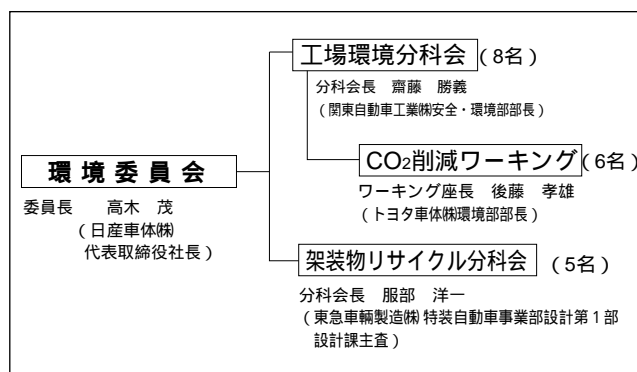
1. 委員会概要

環境委員会は生産過程における課題に取り組んでいる「工場環境分科会」と使用済みとなった商用車架装物の適正処理等について取り組んでいる「架装物リサイクル分科会」より構成されている。

当会の環境課題担当組織は、「有害大気汚染物質排出抑制のための自主管理」取り組みのため1997年2月、中央技術委員会のもとに各部会から委員が選出され「環境分科会」が設置された。1999年11月には当会委員が生産する架装物のリサイクル検討のため「製品リサイクルWG」を追加し、従来の「工場環境WG」との2グループ体制とした。更に環境対応活動の充実をはかり、2005年7月に委員会として独立し現在に至っている。

また工場環境分科会の支援組織として、CO₂排出量の多い小型6社によるCO₂削減ワーキングを2005年12月に発足させた。

2. 現在の構成



3. 活動内容

工場環境分科会の活動

(1) 地球温暖化対策への取り組み

CO₂削減活動に取り組んでおり、詳細は本年度報告(13~14ページ)を参照。

(2) 廃棄物処分量削減の取り組み

2005年度に当会自主目標を5年前倒しして達成したことから、2006年度に目標を「2010年度に最終処分量を2005年度比5%削減(1990年度比83%削減)」、「報告会員の売上高カバー率を95%とする。」と上方修正し、活動中である。2006年度実績は現在集計中で12月に報告を行う。

(3) VOC(揮発性有機化合物)排出抑制に関する取り組み
大気中に排出されるVOCは浮遊粒子状物質の生成や光化学スモッグ発生の原因となることから、大気汚染防止法改正により排出量の削減が求められ、大規模な固定施設に対する法規制と業界ごとに行う自主取り組みで削減を進めることとなった。

当会では2005年度に実態調査を行い、2006年9月に自主行動計画をまとめた。自主行動計画の目標は「VOC排出量原単位(g/m³)を管理指標とし、2010年度原単位値を1990年度比50%削減する(1990年度103.2g/m³ 2010年度51g/m³)」とした。

架装物リサイクル分科会

(1) 商用車架装物リサイクルに関する自主取り組み

2005年1月1日から自動車リサイクル法が施行されたが、倉庫としての再利用やタンクローリ等の載替え再使用に見られるようにシャシと廃棄時期の異なることがある架装物は同法の対象外とされた。

このため使用済みとなった架装物の不法投棄等による環境問題発生予防のため、(社)日本自動車工業会と共同で「商用車架装物リサイクルに関する自主取り組み」を2002年11月に策定し、架装物のリサイクル・適正処理の推進に取り組んでいる。

具体的には解体の容易化を図った設計の推進、環境負荷物質の使用削減、リサイクル・処理困難とされている材料(木材、FRP、断熱材)の処理およびタンクローリ残液分析・処理事業者の協力事業者制度としての紹介や「架装物の適正処理について」の啓発活動等を進めている。この活動は毎年産業構造審議会・中央環境審議会に報告し審議を受けている。

(2) 環境基準適合ラベルの設定、貼付拡大

前項で進めているリサイクル設計の推進策として、2004年3月に「環境基準適合ラベル」の要件を設定した。3R判断基準ガイドラインの作成、解体マニュアルの作成・公開、製造者名の表示、樹脂材料名表示の4要件を満たした架装物には環境基準適合ラベル貼付可能とし、バンやタンクローリ等では既に80%を超えて貼付されており、更に拡大を図っている。

環境委員会

高木 茂 委員長に聞く

(日産車体株 代表取締役)

会員各社の環境課題の 取り組みを把握し、 目標達成を目指す

環境委員会の活動とはどのようなものでしょうか？

かつて企業は主として売上や利益の多寡あるいは規模等により評価を受けていましたが、いまや環境に対する実績や姿勢の公表・開示が不可欠な事項とされており、環境取り組みが評価の大きな要素となっています。万一、環境破壊に繋がる不適切な状況となった場合は、直接の現状復帰処置が必要なだけでなく社会的糾弾を受け企業イメージが大きく傷付いてしまいます。従って環境については現在具体化している環境諸課題に加え将来の危険性も予知した取り組みの検討・対応が求められるようになってきたと考えられます。このため、各企業は自己の責任において環境に関するビジョンをまとめ、取り組んでいくことが重要と言えます。

一方、CO₂排出量削減やリサイクル等業界団体としての対応が求められている分野がありますので、環境委員会としては会員各社の環境課題取組状況の把握、当会としての目標設定や目標達成への取組みが主な活動です。

環境委員会の課題について伺います。

工場環境分科会では、CO₂削減、廃棄物処分量削減、VOC排出抑制等に取り組んでいますが、現在のところCO₂削減が最大の課題となっています。2010年度に1990年度比CO₂排出量10%削減を目標として取組み、コジェネ等の対策により2006年度に売上高当りの排出量は37%減と大幅な改善を行っているものの生産量増加が続いており、当会全体としては更なるCO₂削減が必要になっていることです。

架装物リサイクル分科会が手がけている使用済み商用車架装物の処理については、くず鉄などの廃金属類が高価格で取り引きされたり、中古商用車の海外需要が多いことから今のところ架装物の処理に大きな課題は見られないようなので、使用済み架装物関連事業者の動向把握や情報交換が重要と思われます。



委員長の会社の環境取組みで誇りとされる内容の紹介をお願いします。

当社は多品種変量生産体制の構築を進める中、安全で環境にやさしく高品質な車作りに取り組んでいます。工場が市街地にあるので、徹底した臭気対策や騒音対策などに取組み、地域との共生を目指してきました。

また、生産ラインの統合、コジェネ、省エネ設備導入あるいは日常の省エネ活動により1990年度比CO₂排出量を約40%削減しています。取組みの中には「地球温暖化防止活動 環境大臣賞」をいただいた「光触媒を利用したビル冷却システム」などもあります。

工場側の対応にとどまらず、社会とのかかわりも重要な事項です。企業祭、体験学習、工場見学受け入れ、地域コミュニケーションミーティング、周辺の清掃活動や平塚七夕祭り協賛も毎年行っています。

Profile

- ◆業務歴
 - 1967年 4月 日産自動車株 入社
 - 1994年 6月 日産自動車株 村山工場長 就任
 - 1997年 6月 日産自動車株 取締役 就任
 - 1999年 6月 日産自動車株 上席常務 就任
 - 2003年 6月 日産車体株 取締役副社長 就任
 - 2004年 6月 日産車体株 代表取締役社長 就任
- ◆車工会歴
 - 2003年 5月 理事 就任
 - 2005年 5月 小型部会長 就任
 - 2007年 5月 副会長 就任
- ◆趣味・嗜好
 - 読書：藤沢周平、池波正太郎の著書
 - お酒：日本酒「男山」
 - ウォーキング
- ◆人物寸評
 - 小柄な身体からあふれてしまいそうほどのエネルギー豊富な行動力がありながら、常に控えめな態度で相手を立てる優しさを持ち合わせている、お酒(日本酒)好きな道産子です。